

ツケナ新品種「さぬきな」の育成

加藤伊知郎・片本格・松木保雄・渡邊丈夫

1. 香川県特産の漬け物をつくることを目的にツケナ品種の育成を行い,収量性が高く,品質の良い新品種「さぬきな」を育成した。「さぬきな」は「野沢菜」を母親とし,「広島菜」を父親として 1988 年,香川県農業試験場三木分場において交雑を行い,系統選抜により育成した固定種である。1997 年 9 月に種苗法に基づき,品種登録の出願を行った。

2. 「さぬきな」は,農林水産省が定めた「ツケナ特性審査基準」によって評価すると,草姿は中で,「野沢菜」に比較してやや開,草丈は「野沢菜」と「広島菜」の間である。葉形はへら形,葉色はやや淡緑である。

3. 「さぬきな」は「野沢菜」に比較して,葉数が多く,収量性が高い。耐寒性はやや強で,葉面のアントシアニンの発生はない。葉肉の辛みは無である。

4. 漬け物は,「野沢菜」と比較して繊維が柔軟で歯切れが良く,食味が良い。

キーワード:在来ナタネ,ツケナ,さぬきな